

至誠通天

(至誠、天に通ず)

白田中学校
校長室だより No. 1

平成29年 5月23日

「為せば成る」の精神を日常の学校生活に

平成29年度がスタートしてまもなく2ヶ月、1学期も半分が経とうとしています。月日が過ぎ去るのは本当に早いものです。各学年、4月よりそれぞれの目標に向かって突き進んでいます。今、子どもたちに望むことは、その目標に向かって自分の取り組みはどうか、しっかりと見返しをして欲しいということです。1学期の中間期を迎えていることを踏まえ、見返しと今後の見通しを明確にし、1学期を終えて欲しいと思います。さらに、1・2年生はまだ大きな学年行事を残しているわけですが（1年生は明日24日から宿泊学習）、それぞれに「何かを得られる行事」となるように事前の準備をしっかりと行うこと、そして3年生は進路選択をいっそう身近に引き寄せて考えることが求められます。自分の目標に向けて、日々突き進むことで、自ずと結果と成果が現れてきます。学校としても子どもたちのそのような前向きな姿勢をバックアップしていきます。

さて、4月の入学式の日、生徒に次のような言葉を紹介しました。

「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の 為さぬなりけり」

保護者の皆様方も何度も耳にされたことがあるのではないかと思います。これは、米沢藩主（現山形県米沢市）の上杉鷹山（治憲）が残したといわれる言葉です。「努力をなささい。努力をすれば必ず事は成就する。事が成就しないのはそれだけの努力をしないからだ」という非常に厳しい意味合いを持つ言葉です。一方で、中学校生活の3年間は義務教育のまとめの期間であり、同時に大人として成長していく上でとても大切な期間でもあります。厳しい言葉ですが、これから立派な大人として成長していく子どもたちには是非、この言葉を身近に寄せて、楽な道を選択することなく、また甘えることなく、自分の目標に向けて日々精進をしてもらいたいと切に願うところであります。

学校全体で、「為せば成る」の精神を大切にしていきます。

校長の独り言 ～T先生のこだわり～

保護者の皆様方にも、生徒にも、必ず“こだわり”というものがあるはずです。私にもあります。このこだわりがあるからこそ、探求心というものが湧いてくるのだと思います。

私は、教員になって今年で36年目になります。今まで多くの学校や教育機関に勤務させて頂き、多くの先生方に出会ってきました。初めて赴任した学校は、伊那市にある小学校でした。この学校は、ふるさとを知る、地域を知るということで身近な山である「経ヶ岳登山」を秋の遠足で行っていました。それまでに山には何度か登った経験はありましたが、これを機会に改めて山そのもののよさ、地域を知るために山に登ることの意義を教えられました。以後、学校を異動するたびに、その学校の同僚とその地域の山々を登ってきました。

昨年11月中旬のことです。千曲市出身の同僚の理科の先生（以下T先生）より、「是非、

千曲川の源流から甲武信ヶ岳を案内してください」とお願いをされました。それまでに私は2回同じコースを歩いたことがあり、久しぶりだったので快く引き受けました。T先生は「岩石」が専門の先生で、歩き始めるなり、石を拾ってじっくりと観察をしたり、興味深い露頭に出くわすと写真を何枚も撮っていました。きっとこれがT先生の今回のテーマなんだろうなと思いました。岩石のことについてT先生からいろいろと教えてもらいながら、歩くことおよそ3時間、千曲川の源流に到着しました。一息ついてからさらに約1時間の登りでよいよ目的地の甲武信ヶ岳の山頂に着きました。このときに、T先生が、次のようなことを言われたことをしっかりと覚えています。「このあたりの岩石は私が今まで学んできたものとは違いますね。やはり、現場に来て自分の目で見て確認するということが大切ですね」。岩石の何がどう違っていたのか説明をしてもらいましたが、詳しいことは残念ながら忘れてしまいました。しかし、T先生はとても満足そうで充実感を味わっていたように覚えています。時期的にも夕暮れの時間が早いので、明るい内に下山できるようにするために頂上での滞在時間はわずかでした。

駐車場に着いたのは4時半頃でした。T先生は大収穫があったようです。私も社会科教師のひとりとして、甲武信ヶ岳山頂に立って、歩いてきたコースを眺め、さらに佐久方面の地形を地図と照らし合わせながら確認することができたことはとても嬉しく、感動の一瞬でした。

T先生と共に山を登り、私はT先生の研究心とこだわりの深さというものを感じました。こだわりがあると人はそれを追究したくなります。つまり夢中になるわけです。T先生は、まさに夢中になり、充実した時を過ごしているようでした。そんなT先生の姿をみて私も「案内してよかった」と心の底から思いました。



《甲武信岳山頂より佐久方面を望む、積雪有り》

帰路、T先生は川上村と南相木村の境にある面白い形をした山を見て「あれは何という山ですか」と質問され、「天狗山です」と答えると「面白そうな山ですね、また案内してください」と言っていました。

臼田中学校の生徒も日々、学習に、部活動に、生徒会に一生懸命に取り組んでいます。331名の子どもたちにも是非T先生のように「こだわり」、「追究」することの面白みを味わって欲しいと思います。私たち臼田中学校の職員が授業をはじめとした様々な活動の場で指導・応援をしていきます。

「至誠通天」ですが、「臼田中学校 校長室だより」として、月1回程度に発行させて頂く予定です。内容は学校の様子や校長として考えていること、学校行事の際に生徒に話したことの概要等を伝えていきたいと思っています。ご一読いただき、意見や感想等をお聞かせ願えればと思っています。

※「至誠通天」は、幕末に活躍した長州藩の思想家、吉田松陰が残した言葉とされています。言葉の意味は「一つ一つの課題を着実に乗り越えていけば、いつかは必ず願いは天に通じる、つまり願いは叶う」ということではないかと思っています。先ほど紹介した上杉鷹山（治憲）の「為せば成る」に通じる言葉ではないかと思っています。

（校長 浅川 桂）

